

公益財団法人日本文学振興会

平成 30 年度事業報告書

1. 平成 30 年 5 月 9 日（水）午後 3 時より、日本外国特派員協会にて第 2 回大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション賞の選考委顧問会を開き、それに先立って行われたネット投票の集計結果と合わせて、大賞受賞者および大賞作品、読者賞受賞者及び読者賞作品を下記の通り決定した。

大賞部門

森功『悪だくみ「加計学園」の悲願を叶えた総理の欺瞞』（文藝春秋）

読者賞部門

清武英利『石つぶて 警視庁二課刑事の残したもの』（講談社）

その贈呈式および懇親パーティーは 6 月 13 日（水）午後 6 時より日本外国特派員協会にて開催、大賞受賞者に正賞 1 0 0 万円と副賞の日本航空提供による国際線往復航空券を、読者賞受賞者に 5 0 万円を贈呈した。

2. 平成 30 年 4 月 24 日（火）午後 5 時より、パレスホテルにて第 25 回松本清張賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

川越宗一『天地に燦たり』

その贈呈式および懇親パーティーは 6 月 29 日（金）午後 6 時よりパレスホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞 5 0 0 万円を贈呈した。

3. 平成 30 年 7 月 18 日（水）午後 5 時より、築地「新喜楽」にて第 159 回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 高橋弘希「送り火」（文學界 5 月号）

直木賞 島本理生「ファーストラヴ」（文藝春秋）

その贈呈式および懇親パーティーは 8 月 24 日（金）午後 6 時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞 1 0 0 万円を贈呈した。

3. 平成30年10月3日(水)午後6時より、築地「新喜楽」にて第65回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の4件の受賞を決定した。

① 佐伯泰英

1999年「密命」シリーズに始まる〈文庫書き下ろし時代小説〉という新たなジャンルを確立。平成の読者からの圧倒的支持を得て、累計発行部数は6300万部を突破、出版界を大いに活性化させた

② 東海テレビドキュメンタリー劇場

「ヤクザと憲法」「人生フルーツ」など、独自の視点から地方発のドキュメンタリー作品を制作。作品は映画としても公開され、他のローカル局がドキュメンタリー映画を発信することに大きな影響を与えた

③ 明治書院「新釈漢文大系」

中国古典の代表的文献を幅広く網羅し、58年の歳月をかけて全120巻(別巻1)で完結させた。この文化遺産ともいべき全集の執筆・編纂に関わった100人を超える漢文学者と版元の偉業に対して

④ 松任谷由実

1972年、大学在学中の衝撃的なデビュー以来、その高い音楽性と同時代の女性心理を巧みに掬いあげた歌詞は、世代を超えて広くそして長く愛され、日本人の新たな心象風景を作り上げた

その贈呈式および懇親パーティーは12月7日(金)午後5時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

4. 平成30年6月9日(土)「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に奥泉光氏を招き、早稲田大学小野記念講堂にてとりおこなった。

平成 30 年 6 月 23 日（土）「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に石田衣良氏を招き、ゆいの森あらかわにてとりおこなった。

平成 31 年 1 月 27 日（日）「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に高樹のぶ子・東山彰良両氏を招き、早稲田大学にてとりおこなった。

平成 31 年 3 月 16 日（土）「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に宮城谷昌光氏を招き、立命館大学にてとりおこなった。

5. 平成 31 年 1 月 16 日（水）午後 4 時より、築地「新喜楽」にて第 160 回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 上田岳弘「ニムロッド」（群像 12 月号）

町屋良平「1R1 分 34 秒」（新潮 11 月号）

直木賞 真藤順丈「宝島」（講談社）

その贈呈式および懇親パーティーは平成 31 年 2 月 21 日（木）午後 6 時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞 100 万円を贈呈した。